



TAC株式会社

TAC 株式会社ホームページ <http://www.tac-school.co.jp/>
サイボウズ デヂエ <http://d.cybozu.co.jp/>

資格の学校と言えば TAC。その TAC 株式会社の設立は、1980年。公認会計士講座の開講から始まった。2004年3月1日には、資格取得スクール専業として、初の東証1部上場を果たした。今では、盛岡から沖縄まで 31校(提携校 16校含む)あり、受講者数は 16万人にのぼる(2004年3月期見込)。

その合格を支えるのは、TAC でこだわって作られている教材と優秀な講師陣。教材においてはどの分野においても独自の教材を作り、法改正や税制改正にとどまらず常に教材を見直し、改良し続けている。

今回は、全国に約800名いる講師間の情報共有として活躍している デヂエ の運用方法を、情報システム部 若林 敏春部長に伺った。



ここ数年、不景気の影響か、社会人、学生に関係なく資格を取る人たちの数が増えてきているという。その中でも、大きく増加しているのは社会人の比率だ。資格をとる理由としては、社会人は社内でのキャリアアップ、学生は就職活動で役立てるといった理由が多い。TAC の受講生も年間伸び率 104%という状況だ。

資格を取る人が増えれば、必然的に資格を教える講師の数も必要になってくる。難関資格の合格率が高い TAC では、全国で約800名の講師を抱えており、これら講師陣間の情報共有に活用されているのが デヂエ だ。TAC 株式会社情報システム部 若林 敏春部長に、デヂエ 導入の背景を聞いた。

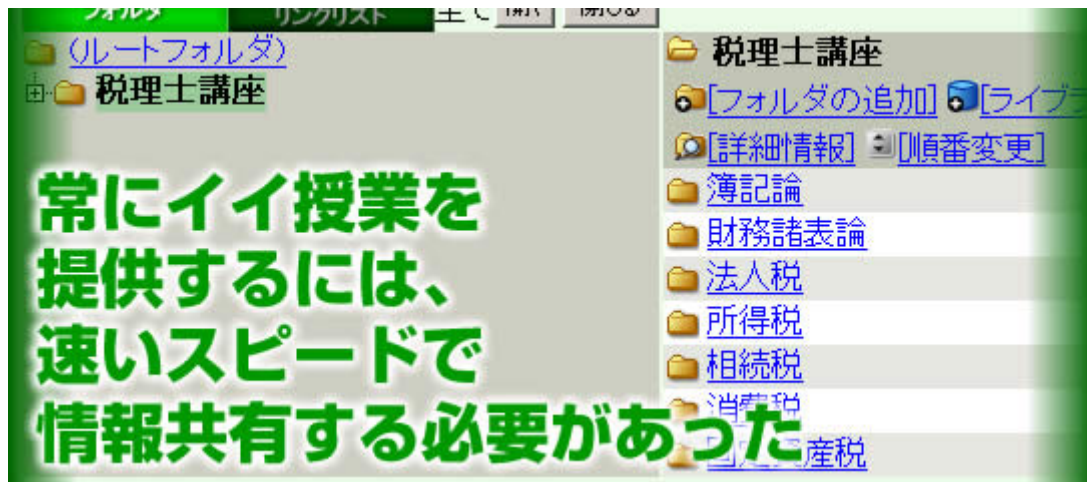
「もともとは事務から来た要望だったのです。講師の方に渡すテキスト原稿、テキストの正誤表、掲示板といった情報交換の場が必要だということでした。非常勤講師の方も多いので、自宅から見れるものが欲しい、というのが要望だったのです。これを実現するには、TAC のネットワークに入っていない提携校にも講師の方も見れるように、インターネット経由での情報共有が必要でした。

そういう時にインターネット広告で DB メーカー(デヂエ の旧バージョン。以下 デヂエ と記す)を知ったんです。もともと一部の部署で サイボウズ Office を使用していた関係でサイボウズは知っていました。そこで早速 デヂエ をダウンロードして試したんですよ。」(若林氏)



デヂエを導入する前は、テキスト原稿、テキストの正誤表といったものは、事務の人が各講師に FAX や郵送で送付していたという。一つの講座で約100名いる講師に送付するには大変手間がかかっていた。また郵送では、遠方の講師への情報伝達が遅れるという問題もあったのだ。一つの講座の情報のやりとりだけでも膨大な負担がかかる。受講者が増えれば増えるほど講座の規模も大きくなり、それだけ情報のやりとりも増えてくる。郵送や FAX での情報のやりとりには限界が来ていた。

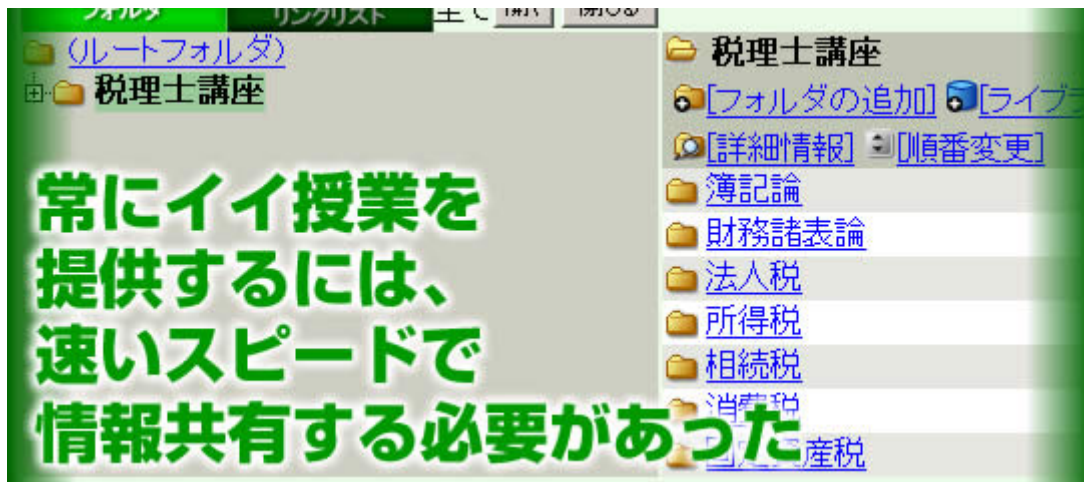
「私は昔、ファイルメーカーを使っていたけど、デヂエは使い勝手が似ていたことと、Webに公開するのが簡単そうだったのですぐに試してみました。実際に試用してみると、操作が簡単であり、Webでの公開も簡単であったこと、安かったことから導入を決めました。ユーザーアカウントに制限が無いのも良いですね。現在デヂエを使っているのは一部の資格のものだけなので、登録ユーザーは約400名です。講師は入れ替わりが多いのですが、それに簡単に対応できるのがいい。特に非常勤の講師の方ですと、約1年の期間で入れ替わるんですよ。通常のソフトウェアのライセンスだと、ユーザーの追加の度にアカウントライセンスの事を考えなくてはならないんですけど、デヂエの場合はユーザー単位の料金システムではなく、使用するライブラリの数で料金プランが決めるので助かっています。」(若林氏)



TAC で運用されている デヂエ のライブラリ数は 25 ライブラリ。システム管理者、ライブラリ作成、は情報システム部のメンバーと、各部署の担当者が行っている。ライブラリの管理自体は、各講座の講師に任せているということだ。

1 講座、テキストの原稿、テキストの正誤表、掲示板という3つライブラリが1セットになっている。例えば税理士講座の11科目中、7科目(簿記論、財務諸表論、法人税法、所得税法、相続税法、固定資産税、消費税法)が デヂエ を使用している。科目ごとにフォルダが作成され、その下にライブラリが3つある、という運用である。各フォルダにはアクセス権がかけられており、講師は担当科目の情報のみ参照できるようにされている。

「例えば税理士試験は11科目の中から5科目とれば合格できる、という試験です。科目間での横のつながりはあまり必要ではなく、一科目、一科目が独立しているイメージが強いのです。そのため デヂエ のライブラリも科目ごとに分けています。テキスト原稿を管理するライブラリと正誤表管理のライブラリには主に PDFなどを添付し、各講師の方にダウンロードしてもらうようにしています。弊社の デヂエ 使用方法は基本的に文書管理系と連絡系の2つになりますね。」(若林氏)



正誤表ライブラリ

テキスト教材の原稿や各種資料の正誤表。印刷後気付いた誤植、生徒からの問合せや講師が気付いたものを元に定期的に更新され、レコード追加のタイミングで担当講師にメール通知がされる。以前は、紙かFAXで共有していたため、非常に手間がかかっていたようだ。

原稿ライブラリ

全国共通の質の高い講習を実施するため、講師は決められた講習内容に沿って教えていく必要がある。その講習内容が記載されているのがテキスト原稿。原稿は本部で作成したものをPDF化し、ライブラリに登録される。講師はそれをダウンロードし、予習用として閲覧する。教材を作成するのは本部のメイン講師。その教材を使って全講師講義を行うため、これらの情報共有のスピードは必然だった。テキスト原稿はぎりぎりに関わるが多いため、郵送では限界が来ていたようだ。

掲示板ライブラリ

講師間でのやりとりをここで行う。正誤表についてのやりとりや、「さんへ」といった書き出しで特定の講師への連絡なども記載されている。情報共有のため、レコード追加のタイミングで講座に関係する講師宛にメール通知が設定されている。

事務、講師の方は、問題なくデヂエを使っているという。ただ、簡単な操作マニュアルは、若林氏が用意したということだった。



その他の活用法として、ビデオ講座での資料印刷にも デヂエ が一役買っているということだ。ビデオ講座は、時間が取れない生徒のために用意された講座で、多い地区では一回100席も用意されており、これが一日に3,4回転する。土日はほとんど埋まってしまう、という人気の講座だ。

「ビデオ講座は、個別のブースで講師が説明しているビデオを生徒の方が見ながら勉強するという講座なんです。ビデオだけではわかりにくいということもありまして、講師の方がビデオの中で板書した内容をテキストにして生徒の方々にお渡ししているんです。そのテキストの内容をスキャナで読み込みファイル化し、『VTR 講義録』ライブラリに登録しています。各拠点の事務担当者は、ビデオ講座の予約が入ると『VTR 講義録』ライブラリから該当のテキストをダウンロードし、印刷して生徒さんに渡すようになっています。」(若林氏)

以前は、テキストの原本を各拠点に郵送していた。ビデオ講座の予約が入ると、各校の担当者が、原本がファイルされているバインダから該当の講座を探し出し、コピーしてまたしまうと非常に手間が掛かっていた。それを100席分、多いところだと一日に400席分用意しなくてはならなかったのだ。原本の管理を デヂエ ですることにより、各校に原本を送付する手間が無くなり、原本を探すスピードがあがり、複数人が同時に原本を印刷することも可能になり、多大な業務効率が図れたという。



講師との情報共有に デヂエ を使ったこと、VTR議事録を デヂエ で共有していることで、どのような効果があったか、若林氏に尋ねた。

「一つは私自身の時間がとられなくなっただけのことですね。また、事務の人が担当していた作業が、格段に短い時間でできるようになりました。何よりも、情報流通のスピードが格段に速くなったことが効果としてあげられます。

講師の方々への連絡事項ですら非常に時間がかかっていたものが、デヂエ化することによって、今までは瞬時に連絡することができるようになりましたから。メール通知機能が、非常に役にたっています。ただ講師の方によっては、みなかったりする人もいますけどね(笑)。デヂエのおかげですいぶん便利になりましたよ。」(若林氏)



今後は、提携校との情報共有に デヂエ を役立てたい、と若林氏は語る。

「弊社の教材を使用して講座を行って頂いている提携校が 10 数校あるんですが、講座情報などの連絡用として デヂエ を使用しようと考えています。提携校は TAC のネットワークに入れないため、詳細な情報は別途連絡する必要があり、その連絡用として、各校の連絡先や講座情報をデヂエ化し公開したいと思っています。他にも社内用として何か使える用途があれば、使いたいと思っています。」(若林氏)

より質のよい授業を行うことを目指し続ける TAC。その授業の隠れたサポートとして、デヂエは今後も活躍していこう。



基本情報

システム概要図

利用製品	サイボウズ デヂエ (プラン 60)
業種別区分	各種学校、教室
管理者レベル	専任管理者
システム概要	[サーバー] Linux
	[クライアント] Windows クライアント
ネットワーク	各拠点は VPN の専用線で結ばれている。ファイアーウォールを通じて、インターネット網へとアクセスする。

